

現代詩 ● 佳作⑥

初めて一人でせんたくした
積み重なりが落ちてつた
春の日は柔らかい
絶好のせんたく日和だ
母も父もない
一人でせんたくしていく口々
外から見たとき
せんたくのミスが見える
白も無地も、真っ新も、
やがて染まっていく
間違えても分からない
毎日せんたくの日々だ
一人でせんたくしていく
時間が経つ

講評

一人でせんたくをする。それも毎日。実際に毎日洗濯をしている生活かどうかは知らないが、このせんたくを、心の洗濯、心の刷新の比喩として読んでみるとおもしろい。暗喩としての詩ならば、詩的センスがあると感じた。

(審査員・金井 雄二)

あおき・こあ 本名・青木絵利子(あおき・えりこ)1978年生まれ。無職。横浜市在住。

せんたく日和 金成 悠樹 作

かなり・ゆうき 200
3年生まれ。県立麻生高
校2年。川崎市麻生区

エンジン音だ。
十代で免許を取得して以来ずっとこのバイクに乗っている。小さな車体で小回りが利き、大きなトヨタヒーを入れるか、アイスティーを入れるか悩んだ。そんな細かいを考えるのが今は楽し

く、それだけ気持ちが弾んだ。これから海へ向かい、防波堤の上で一小時間ほど過ごす予定だ。それは冷えた紅茶が理想的だ。冷蔵庫から市販のアイスティーを取り出すとボトルへ注ぎ、準備しておいたリュックにマグボトルを押し込み外へ出た。

まだ暗く寂静まる住宅街の中で、私は愛車である50ccの古いバイクに跨り、エンジンスタート

母の介護を始めたもう七年。それ以来、平均睡眠時間は三時間になった。昼間は家事に週三回の病院への送迎。夜中は頻繁に行くトイレの介助。介護認定を受けられるほど悪い訳でもなく認知症でもない。かと言つて誰かが傍に付いていないければ生活はままならない。そんな人が今はさら

外へ出た。

まだ暗く寂静まる住宅街の中で、私は愛車である50ccの古いバイクに跨り、エンジンスタート

母の介護を始めたもう七年。それ以来、平

均睡眠時間は三時間になった。昼間は家事に週三

回の病院への送迎。夜中は頻繁に行くトイレの介

助。介護認定を受けられるほど悪い訳でもなく認

知症でもない。かと言つて誰かが傍に付いていな

ければ生活はままならない。そんな人が今はさら

外へ出た。

まだ暗く寂静まる住宅街の中で、私は愛車である50ccの古いバイクに跨り、エンジンスタート

母の介護を始めたもう七年。それ以来、平

均睡眠時間は三時間になった。昼間は家事に週三

回の病院への送迎。夜中は頻繁に行くトイレの介

助。介護認定を受けられるほど悪い訳でもなく認